

日本地球掘削科学コンソーシアム会員提案型活動経費実施報告書
申請活動名：西部太平洋掘削新規プロポーザル作成のためのワークショップ

代表者氏名：板木拓也

1. 概要

2013年5月9～10日、箱根で「International Workshop on IODP Proposal Writing for the Western Pacific Drilling」を開催し、西太平洋における掘削プロポーザルの検討会を立ち上げた。今回の会議は、敢えて具体的な科学ターゲットを限定せず、古海洋学、テクトニクス、古地震など、広い分野からのアイデアを集めた。更に、北西太平洋、東シナ海、西赤道太平洋の3つのサブグループでプロポーザルの具体的なターゲットの抽出を行った。今後、これらの地域を対象とした複数のプロポーザル作成を目指し、本ワークショップ（Western Pacific drilling: WEPAD）は、それらのハブとしての役割を果たすことで合意した。

2. これまでの経緯

過去5年間に渡って J-DESC の支援を受け、日韓共同で沖縄トラフの掘削計画を立案し、2011年にプロポーザルを提出するに至った（#777-APL）。ワーキンググループは、更に時代や地域などの視野を広げる必要性を強く感じ、昨年度から新規 Full-Proposal 提案に向けた掘削計画の検討を開始した。この計画を柔軟かつ強力で押し進めるためには、現在の枠組みを発展的に解消し、新たに国際的な実施体制を構築して、より先鋭的な議論とそれらの取りまとめをしていく必要があった。これらを鑑み、本ワークショップでは、（1）国内外にネットワークを広げた体制の再構築、（2）新規プロポーザルの題材抽出と具体的なターゲットの決定、（3）プロポーザル提出に向けた戦略とロードマップの作成を主な目的とし、掘削へ向けた方針の明確化を目指すこととした。

3. 参加者（アイウ順）

荒井晃作（産総研）
池原 研 （産総研）
池原 実（高知大学）
板木拓也（産総研）
小田啓邦（産総研）
木元克典（JAMSTEC）
久保木 結（東京大学）
久保田好美（国立科学博物館）
黒川駿介（東京大学）
新城竜一（琉球大学）
多田隆治（東京大学）
松本 剛（琉球大学）
山本正伸（北海道大学）
Chang Yuan-Pin (National Sun Yat-sen Univ.)
Chen Min-Te (National Taiwan Ocean Univ.)
Lee Kyung Eun (Korea Maritime Univ.)
Luo Chao (Nanjing Univ.)



会場となった強羅静雲荘の庭での集合写真

4. ワークショップ内容（詳細は添付の議事録を参照）

第一日目は、主にプレゼンテーションが行われた。最初に、これまでの日韓ワークショップを終了することを日韓メンバーの合意のもとで宣言し、新たにプロポーザル作成のための国際連携体制を構築することで意見が一致した。その後、計 11 件の話題提供があった。また、提出中のプロポーザル APL-777 についての現況報告とサイトサーベイデータ追加に関する作業の分担を決めた。

第二日目は、前日の話題提供を総括した上で、プロポーザルを北西太平洋、東シナ海、西赤道太平洋の 3 つの地域に分けて検討することを提案し、それぞれのグループに分かれて具体的なターゲット、掘削候補地点、連携すべき研究者などを検討した。その後、各グループによる発表をもとに議論の共有を図った。今後、黒潮の成立と進化を解明すべく、北西太平洋、東シナ海、西赤道太平洋におけるプロポーザル作成を検討することとした。また、古地震、テクトニクスについても別途提案が可能か検討する。今後、それぞれのサブワーキンググループが個別にプロポーザル作成に向けた準備を行うが、互いの連携体制の強化と情報共有を目的として、年 1 回程度の合同ワークショップを開催することとした。そのため、各サブグループのリーダー等で構成した事務局を立ち上げ、この新体制のニックネームとして WEPAD (Western Pacific drilling) と呼ぶこととした。

5. 謝辞

今回のワークショップ開催に当たり、日本地球掘削科学コンソーシアム (J-DESC) より、会員提案型活動経費として援助を賜った。同コンソーシアム及び関係者各位に深く感謝する次第である。